WOODONE

株式会社 ウッドワン

〒738-0023
広島県廿日市市下平良1-12-1

[商品相談窓口]
0120-813-331
[受付時間]平日8:30～17:00
[休日]土日·祝日·GW·年末年始·夏期休暇

TKB-J　TPB-J

124 05240 72775 8

施工業者様用

〈施工説明書〉

機能引き戸
・自閉式幅広片引き戸
・自閉式幅広引き込み戸

調整枠

このたびはウッドワンの商品をご採用いただき、誠にありがとうございます。
施工前にこの施工説明書をよくお読みいただき、安全に正しく施工されるようお願い致します。
製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害·財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」をよくお読みください。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りいただき、内容をよく理解して正しくお使いください。

安全上のご注意　安全に正しくお使いいただくために必ずお守りください

⚠ 注意　施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

·屋内専用。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進む原因となります。

·インパクトドライバーで締めすぎないようにする。
インパクトドライバーの締めつけトルクが強すぎると、ビスが空回りしてしまうおそれがあります。

·ビスはビス穴に取り付ける。
ビス穴加工以外の位置にビスを取り付けると、枠材に割れが発生し、扉の脱落の原因となり危険です。

必ずおこなう

·開梱後は換気を行なう。
本製品はホルムアルデヒド·VOC(揮発性有機化合物)対策品です。ただし、新築·リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド·VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。

·躯体に欠点がないことを確認する。
躯体接合金具を取り付ける際、躯体のビスがあたる部分に節や割れなどの欠点がある場合、金具が固定されず枠材がはずれる原因となり危険ですので、強固に固定できるよう下穴や下地材を入れてください。

·同梱の金具を使用する。
本製品の取り付け、施工には必ず同梱の金具類を使用してください。

·調整用戸車·レール等は消耗性部品。
引戸用戸車およびレール間に、異物が付着した状態での開閉は避けてください。長期間のご使用にあたり、開閉がしづらくなった場合には、交換(有償)をお薦めします。

·躯体接合金具の調整範囲は竪枠最大11mm上枠最大9mm。
調整可能範囲を越える場合は枠材がはずれる原因となり危険ですので、調整範囲を満たすように下地材などを入れてください。

·補強の飼木(現場調達)を入れる。
ソフトクローズ仕様の時は、トリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木(現場調達)を必ず入れてください。飼木で補強をしないと、鴨居が破損してしまうおそれがあります。

お願い

· 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
· 照明灯·ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

施工終了後

養　生　当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。粘着テープなどは直接商品に貼り付けないようにしてください。

お手入れのしかた　枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を固くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナー·塩素系洗剤などの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

自閉式枠セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立（モヘア付）	鴨居	L型幕板 L	L型幕板 S
入数	片引き戸	1本	1本	1本	1本	1本	1本
	引き込み戸	1本	1本	2本	1本	—	2本
備考（部材品番等）		—	—	—	—	—	—

ビスセット（自閉式枠セットに梱包）

部材名		セット品番	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16	幕板固定ビス
入数	片引き戸	ZYGK01-□	2本	10本のみ使用（12本入）	8本	1本	8個	8本
	引き込み戸	ZYGK01-□	2本	12本	8本	1本	8個	8本
備考（部材品番等）			—	—	—	—	ZY085B-K-□	—

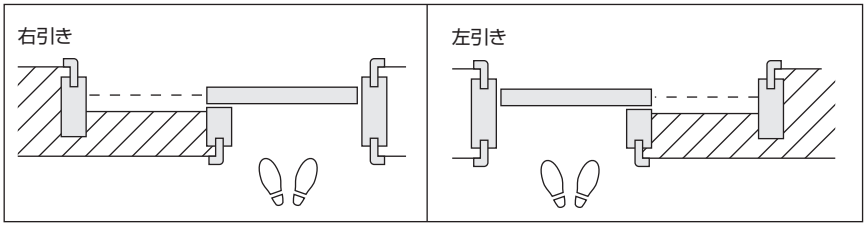
自閉式金具セット（別梱包）

部材名		セット品番	自閉式レールセット（一式）	上レール取付ビス 25mm φ3.5mm	ゼンマイ装置	ゼンマイホルダー	ゼンマイホルダー取付ビス 25mm φ3.5mm	ホルダー（吊カップ）	ホルダー固定ビス 30mm φ4mm	振れ止め金具（床付用）
入数	片引き戸	ZYJW●	1セット	8本	1個	1枚	2本	2個	6本	1個
	引き込み戸	ZYJP●	1セット	8本	1個	1枚	2本	2個	6本	1個
備考（部材品番等）			—	—	—	—	—	—	—	ZY3334

引き手方向の確認

※片引き戸の場合のみ。

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。



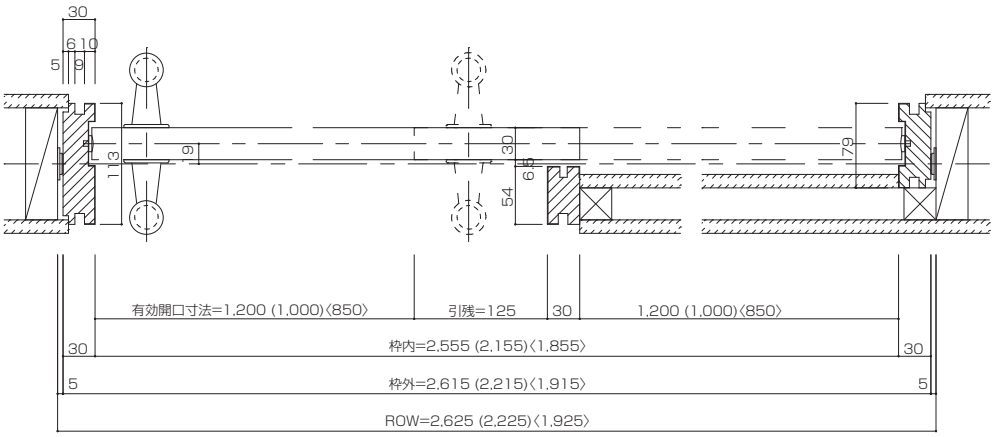
片引き戸 施工…3ページに進んでください。

引き込み戸 施工…11ページに進んでください。

納まり図 自閉式片引き戸

横断面図

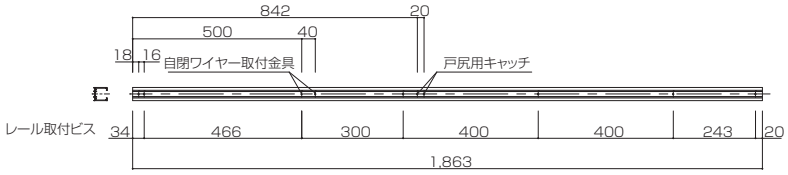
（単位:mm）



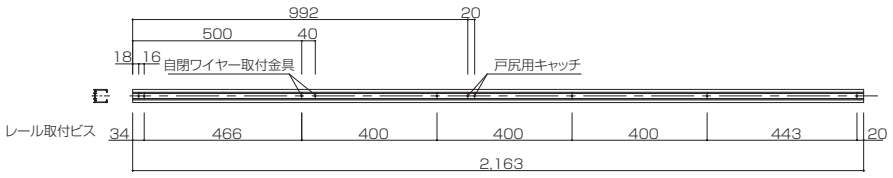
※図示:左引き手

■レール詳細図

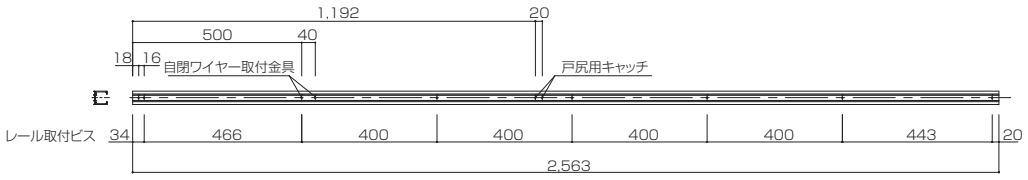
枠外=1,915
穴径:共通Φ4.5



枠外=2,215
穴径:共通Φ4.5

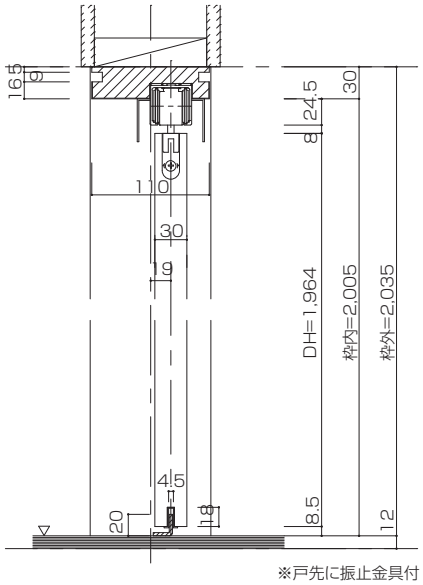


枠外=2,615
穴径:共通Φ4.5



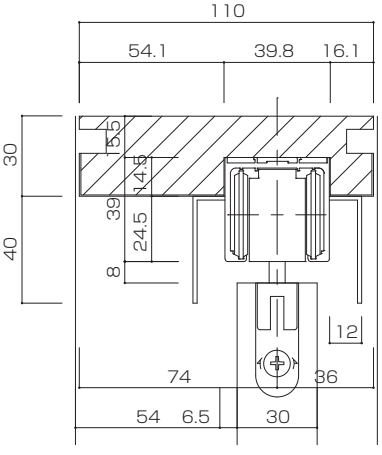
縦断面図

（単位:mm）



※戸先に振止金具付

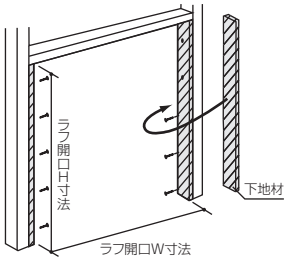
鴨居詳細断面図



施工手順（自閉式片引き戸）

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

① 取り付け開口部の確認

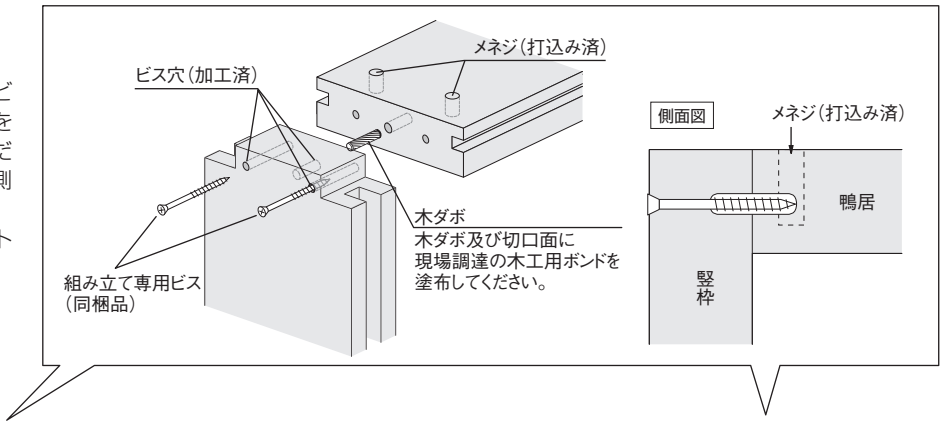


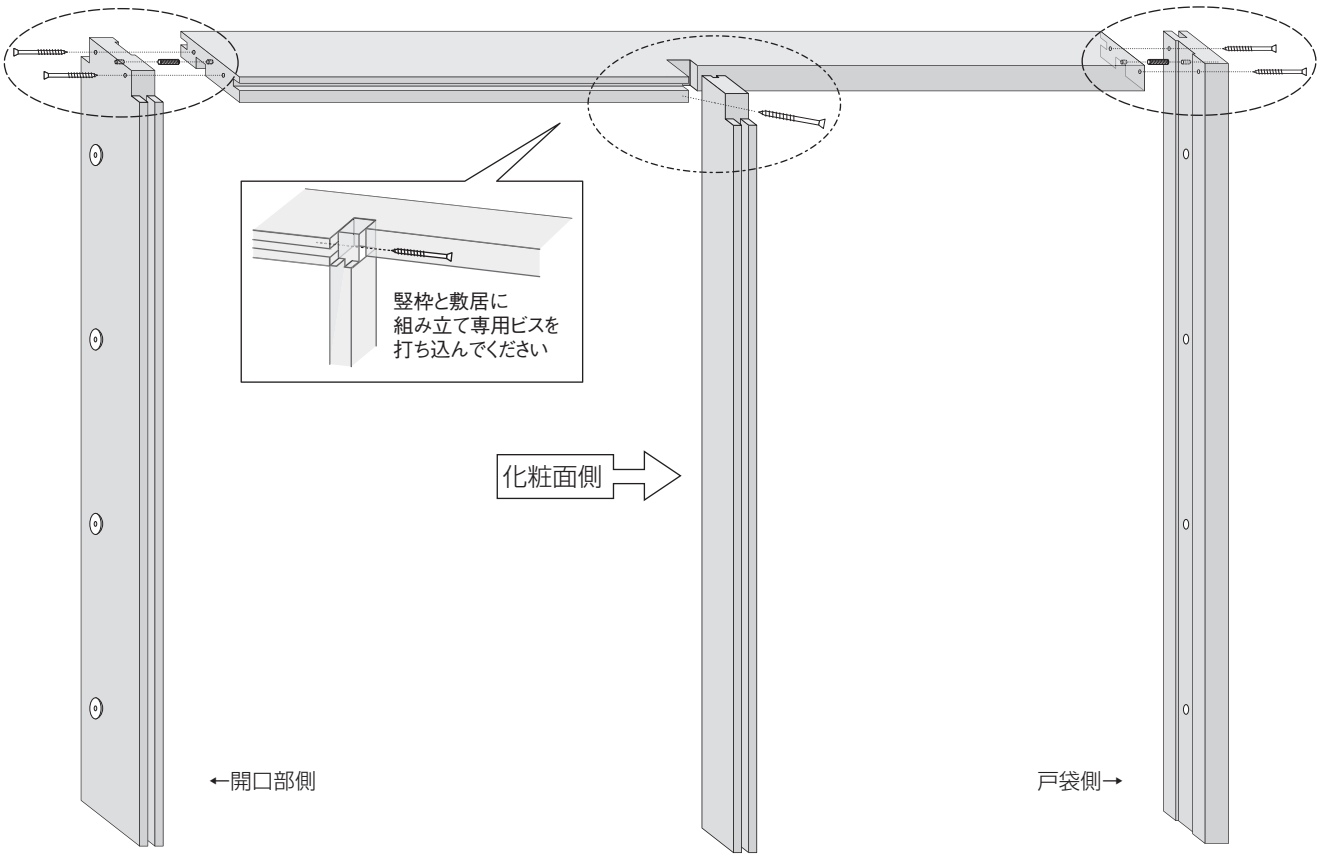
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、
枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

② 枠材の組み立て

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

同梱の木ダボ、組み立て用ビス、木工用ボンド（現場調達）を使用して枠材を組み立ててください。鴨居の細くなっている側が戸袋側になります。
※戸袋側の竪枠には化粧シートは貼られておりません。



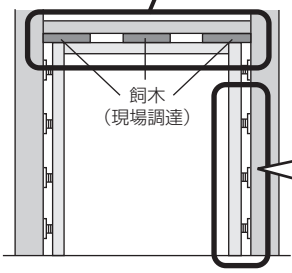


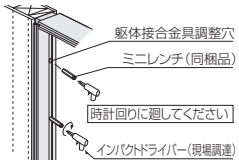
③ 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

4方に組んだ枠材を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に
別途パッキン材などを用意する必要はありません。

⚠ 注意

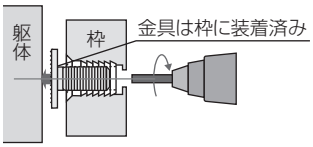
鴨居裏に補強の飼木(現場調達)を入れてください。
この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。





ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する

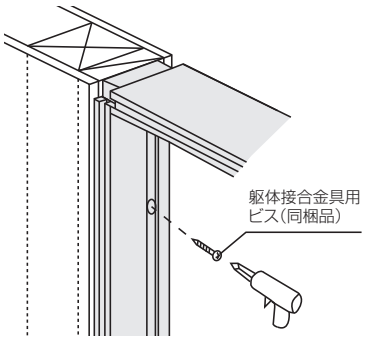
開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ねじれを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。



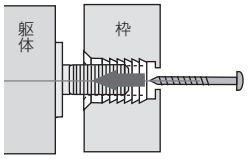
同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

⚠ 注意

インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。



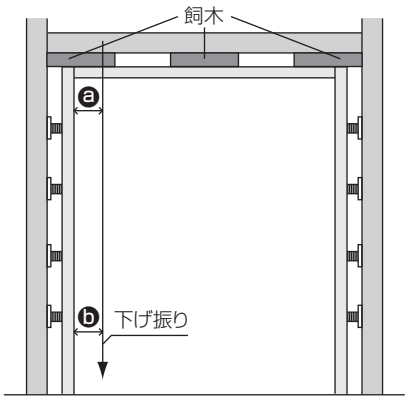
竪枠を躯体接合金具用ビスで
躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、
柱と枠を固定します。
(竪枠→調整→鴨居の順に固定します。)

④ 建て付け調整と鴨居の本固定

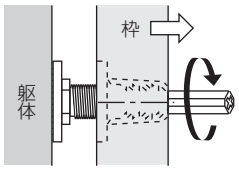
竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。



- 水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
  併せて前後の建りも調整してください。
- 建りを調整後、最後に固定してください。

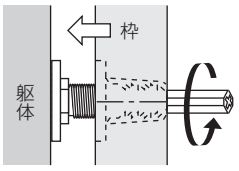
枠を内側に寄せる場合

時計回り(右回り)で調整

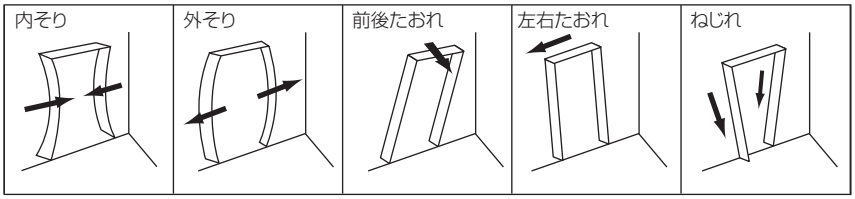


枠を外側に出す場合

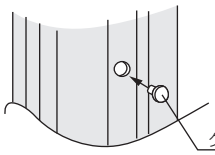
反時計回り(左回り)で調整



※下記の様なことがないようご注意ください。

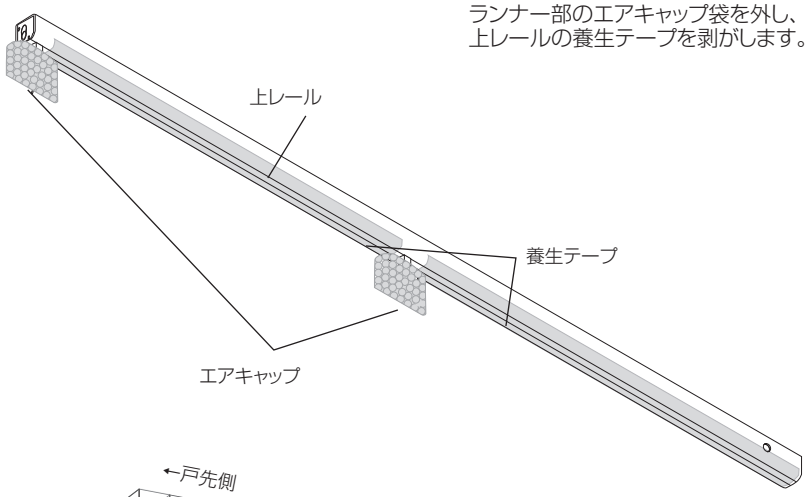


竪枠を調整後、必ずビス穴にクッション
キャップを取り付けます。



⑤ 上レールの取り付け

ランナー部のエアキャップ袋を外し、
上レールの養生テープを剥がします。

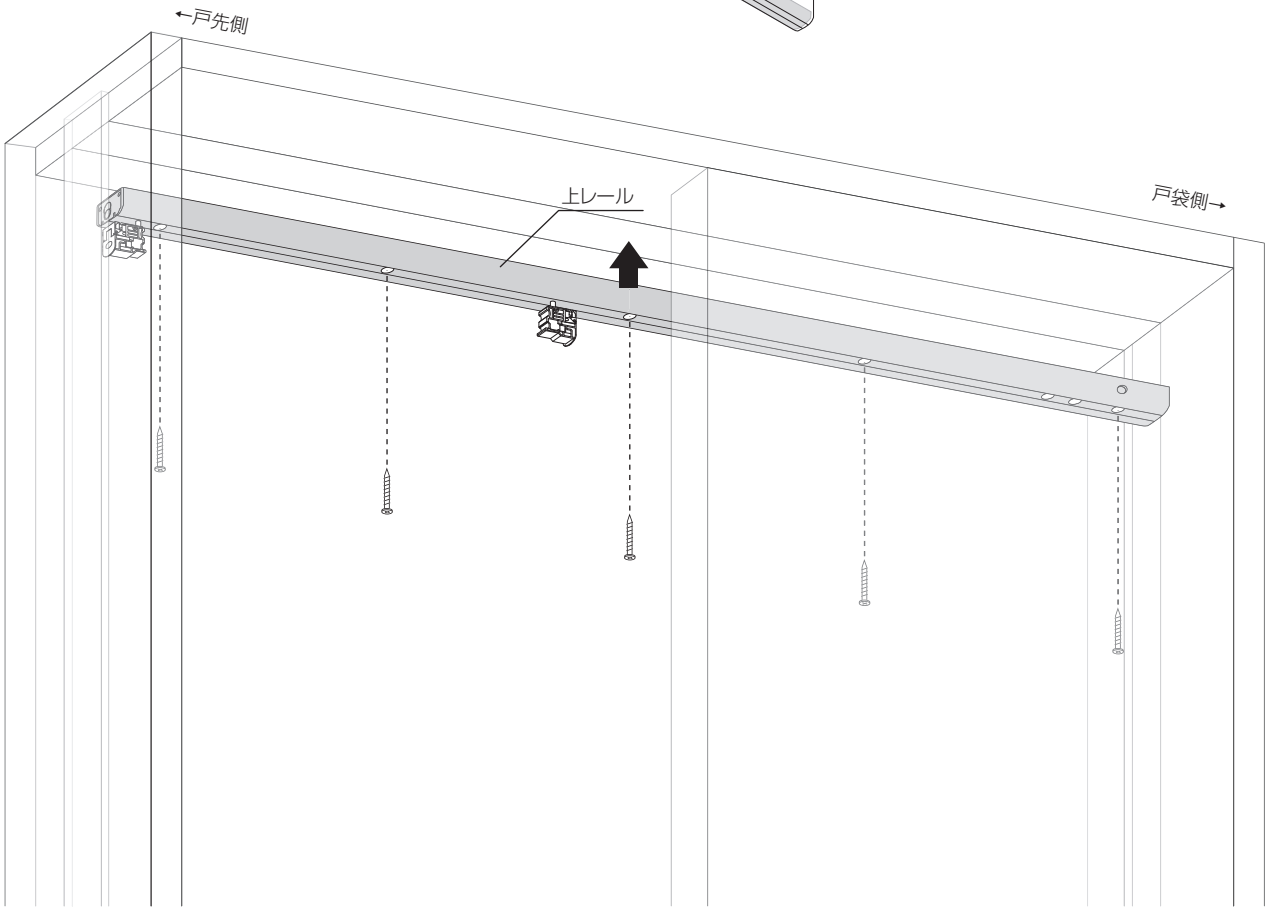


⚠ 注意

**養生テープは扉吊込みの直前まで必要です。
上レール取付後、砂塵、埃などを防止するため
必ず再度養生テープを貼り付けてください。**

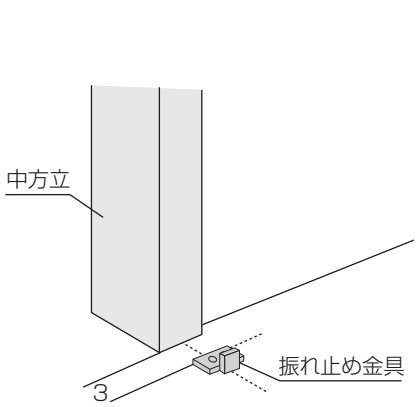
⚠ 注意

**戸吊りランナーを1,200mm以上
移動させないでください。
巻きばねが外れる恐れがあります。**

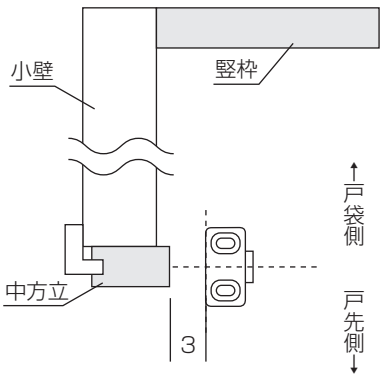


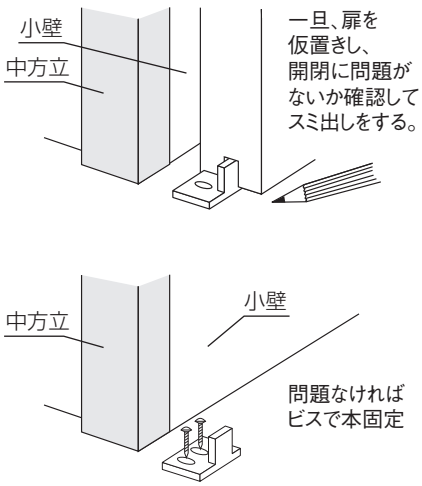
⑥ 振れ止め金具の取り付け

（単位:mm）



真上からみた図

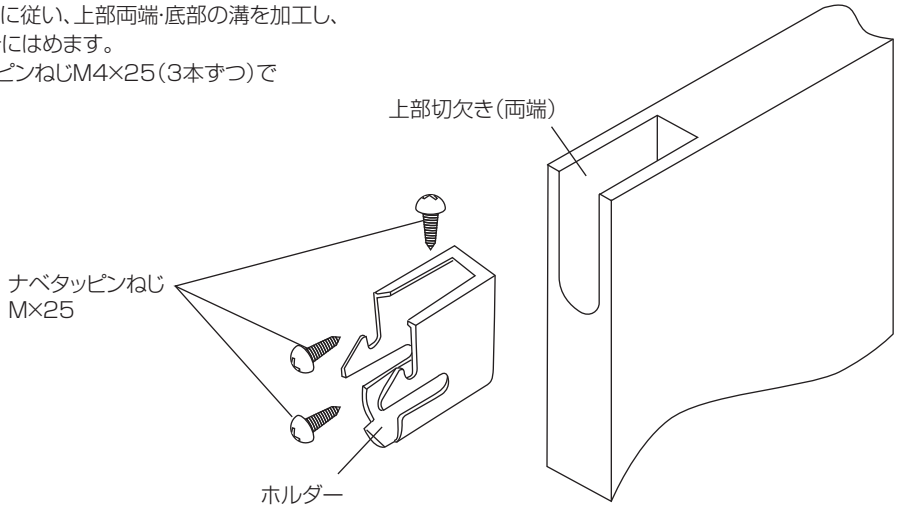




⑦ 扉吊り込み前の準備

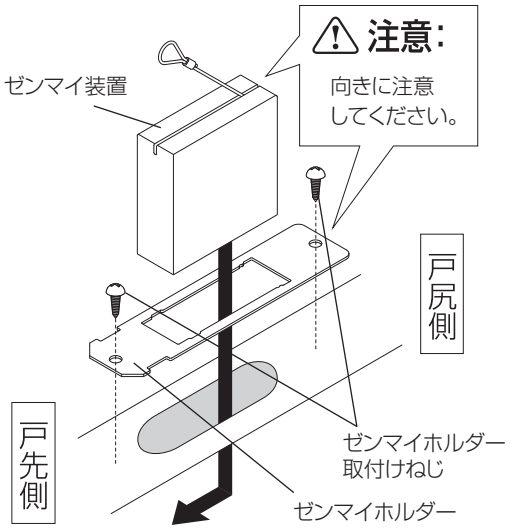
ホルダーの取付け

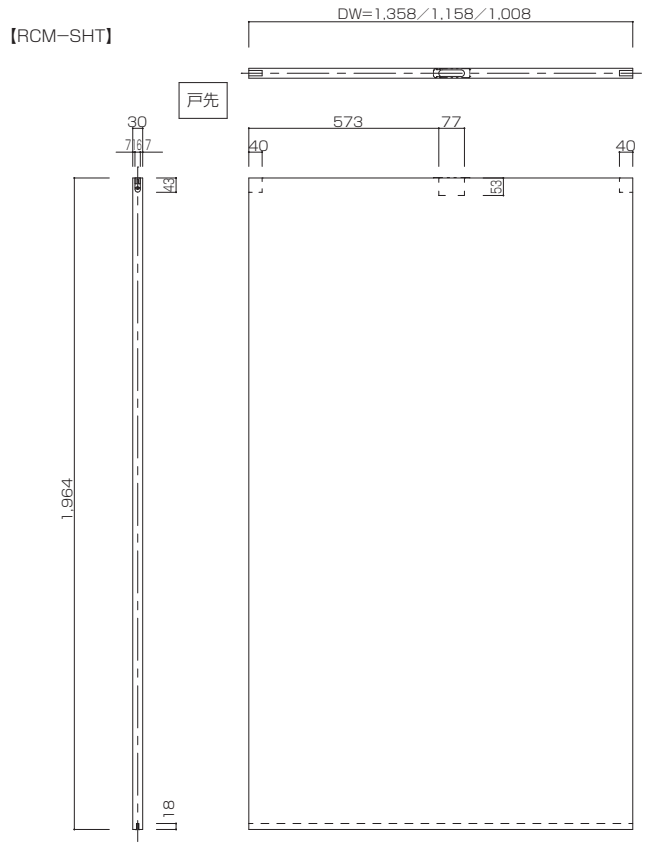
扉本体を納まり図の扉加工寸法に従い、上部両端･底部の溝を加工し、
ホルダーを扉の上部両端切欠きにはめます。
ホルダーをはめ込み後ナベタッピンねじM4×25（3本ずつ）で
ねじ止めします。

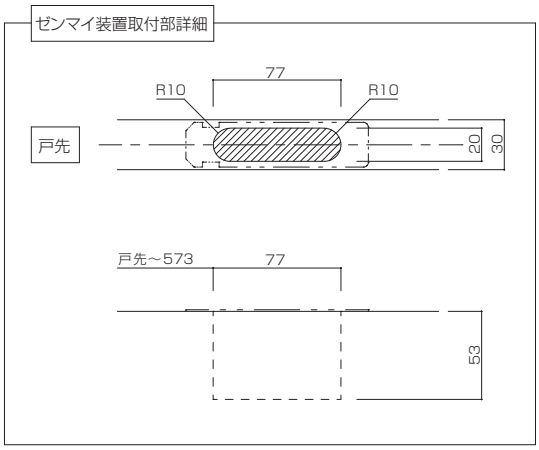


ゼンマイ装置の取付け

ゼンマイホルダーをゼンマイホルダー取付けねじを使って取付けます。
ゼンマイ装置を挿入し、戸先側へずらしてゼンマイホルダーへはめます。

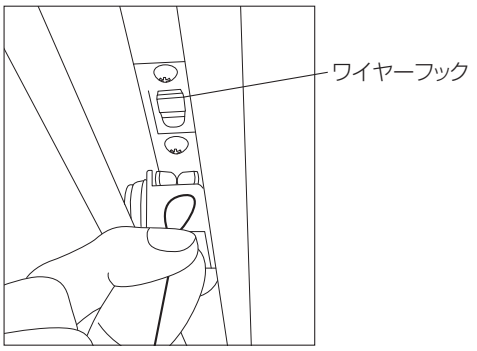




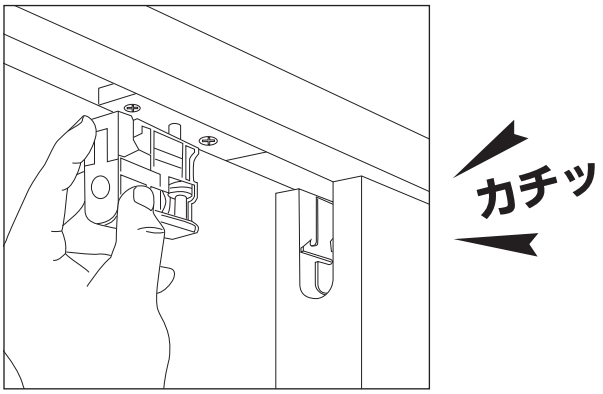


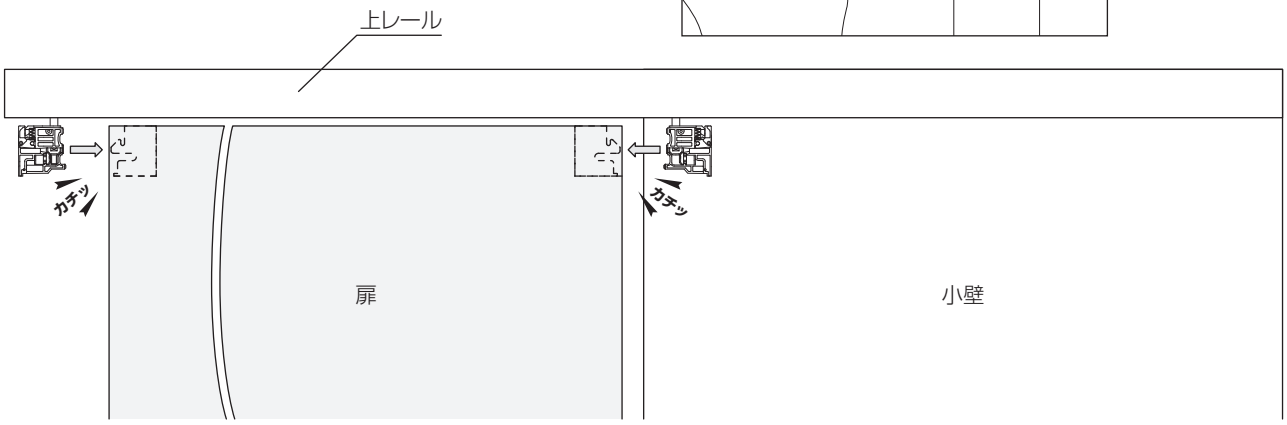
⑧ 引き戸の吊り込み

戸と開口部に寄せて、ゼンマイ装置のワイヤー先端を
ワイヤーフックに引っ掛けます。



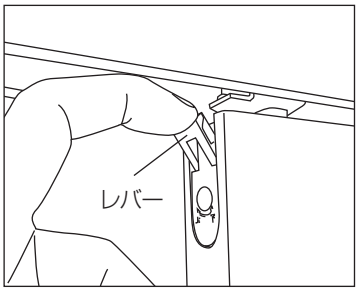
床に取り付けた振れ止め金具に引き戸をひっかけ、戸尻側の吊車を
スライドさせ、固定カップにカチッと音がするまで差し込んで
取り付けてください。
戸尻側の吊車を取り付けたら、ゆっくり扉をレールと平行になるように
スライドさせていきます。
扉がレールと平行になったら、戸先側の吊車を先程と同様に
固定カップにカチッと音がするまで差し込んで取り付けてください。

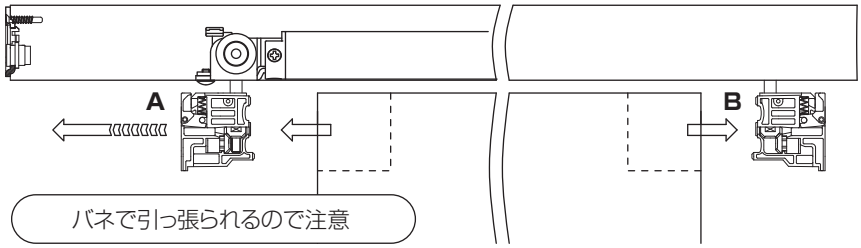




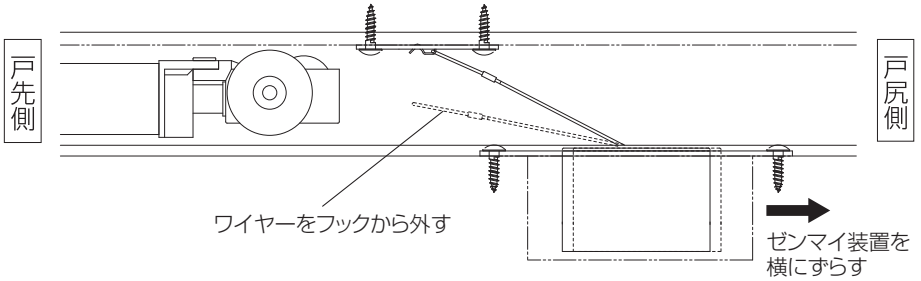
⚠ 扉の取り外しに注意

扉を外す場合は以下の手順で行ってください。
1.戸先ランナーA･戸先ランナーBのレバーを起こします。
2.そのままレバーをつまみ、手を離さず戸先ランナーA･戸先ランナーBを引き出します。
※戸先ランナーAを取り出す場合は、引き出した瞬間に戸先ランナーがバネで引っ張られますので、縦枠まで手を添えておいてください。
（急に離すと戸先ランナーAが急激に移動し、破損の原因となりますのでご注意ください）





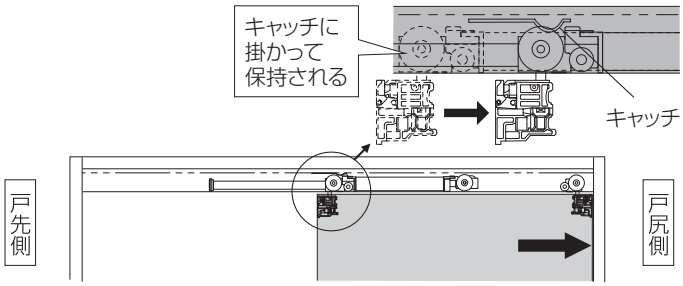
ワイヤーをフックから外します。
ゼンマイ装置はホルダー内で戸尻
方向へ横にずらすと外せます。



⑨ 動作確認

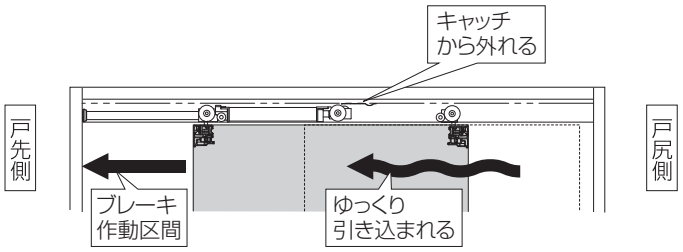
戸を全開にする

戸を全開し、キャッチに掛かって静止するか確認します。



戸を閉じる

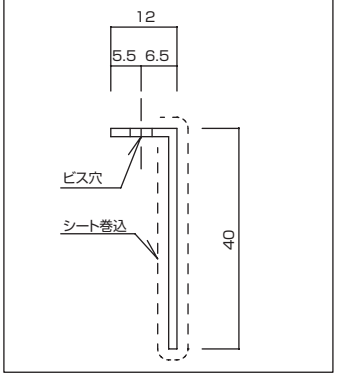
全開状態から戸を引き、キャッチを解除したら手を離します。
戸が自動で引き込まれ、ブレーキが掛かってから閉まりきることを確認します。

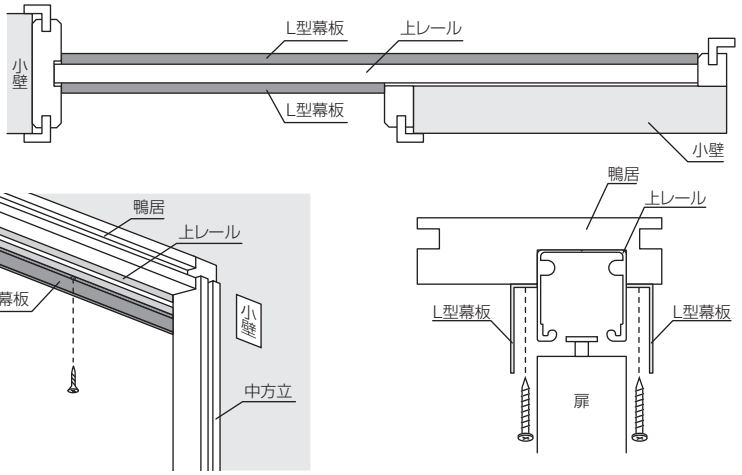


⑩ L型幕板の取り付け

引き戸を吊り込んだ後にL型幕板を上レールに合わせて取り付けてください。

L型幕板断面図

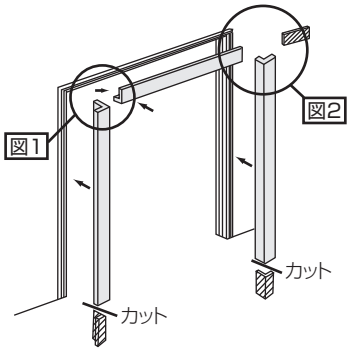




ビスの取り付け位置にご注意ください。

⑪ ケーシングの取り付け

（単位:mm）



ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用接着剤（現場調達）を使用し、取り付けてください。

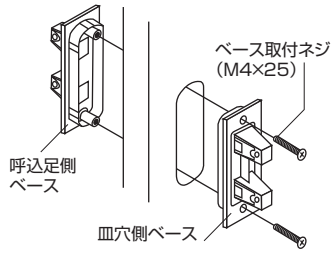
図1・図2

⑫ 引き手の取り付け

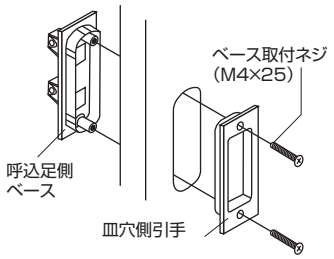
1.ベースの取り付け

呼込足側ベースと皿穴側ベースをベース取付ネジでしっかり固定してください。
片側バー引き手仕様の場合は、片側は引き手になります。

両側バー引き手仕様の場合



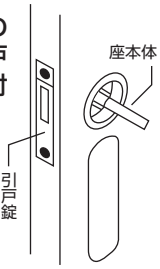
片側バー引き手仕様の場合



⚠ 注意

※電動ドライバーは使用しないでください。
各取付ネジは、製品が変形・破損しないよう注意し、しっかり締め付けてください。

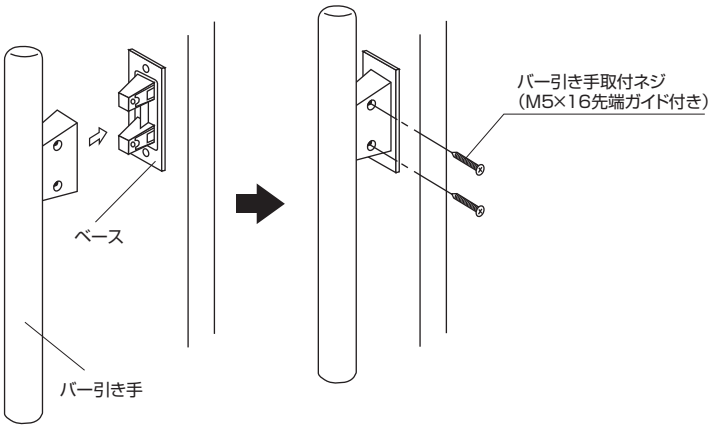
※引戸錠をご利用の場合は、先に引戸錠セットを取り付けてください。
先にバー引き手を取り付けると、引戸錠の座本体を取り付ける事ができません。



2.バー引き手の取り付け

バー引き手をベースにかぶせ、バー引き手取付ネジでしっかり固定してください。
取り付け後、バー引き手にガタツキが無いか確認してください。

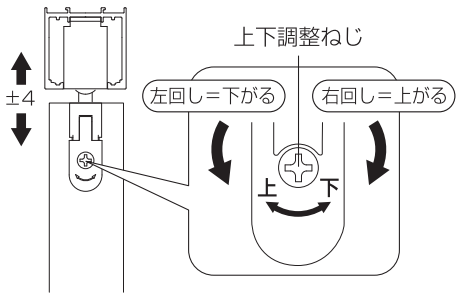
バー引き手からバー引き手への交換は
右記の逆順で取り付けてください。



⑬ 各種調整

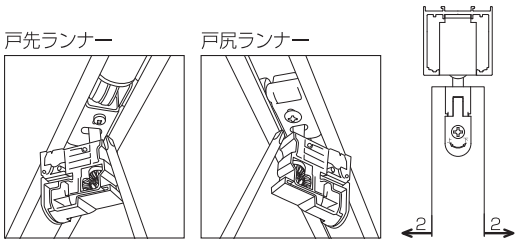
●戸の上下調整

上下それぞれ4mmの調整が可能です。
戸先ランナー・戸尻ランナーの"上下調整ねじ"を回して調整します。



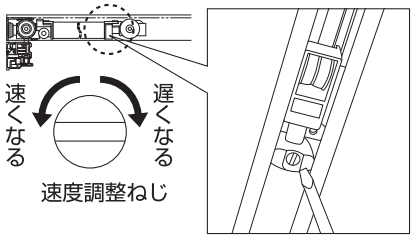
●戸の前後(奥行き)調整

前後それぞれ2mmの調整が可能です。
1.戸先・戸尻のランナーを戸から引き出して、各ランナーの下面にある"前後調整ねじ"を緩めます。
2.戸の前後位置を調整します。
3.調整が終わったら"前後調整ねじ"を締め込みます。



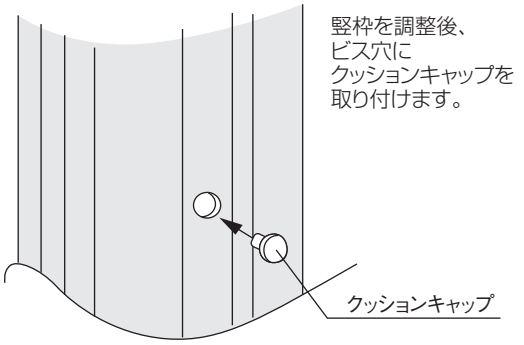
●ブレーキ力の調整

ブレーキ作動区間内で戸が閉まる速さを調整できます。
戸先ランナーユニットを戸から引き出して、ブレーキシリンダーについている"速度調整ねじ"を回して調整します。
※・左回し:速くなる(ブレーキ力が弱まる)
・右回し:遅くなる(ブレーキ力が強まる)



●クッションキャップの確認

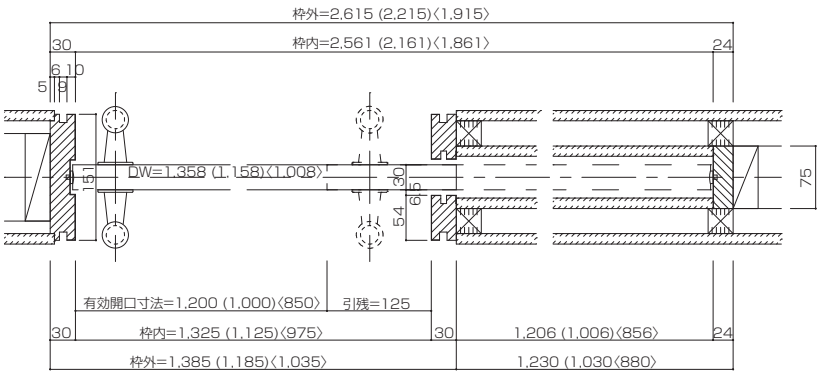
クッションキャップの確認



納まり図 自閉式両壁引込戸

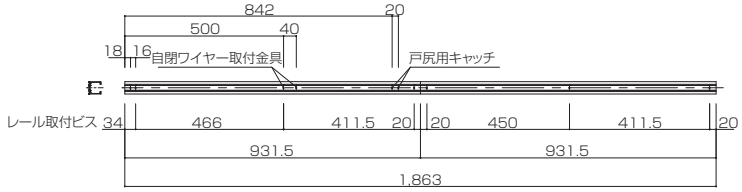
横断面図

（単位:mm）

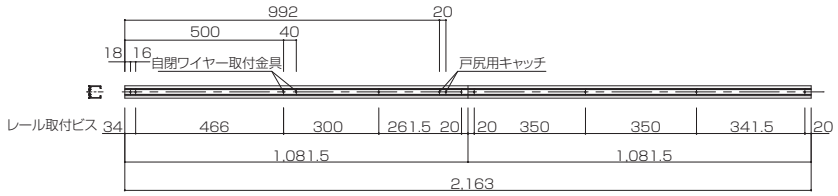


■レール詳細図

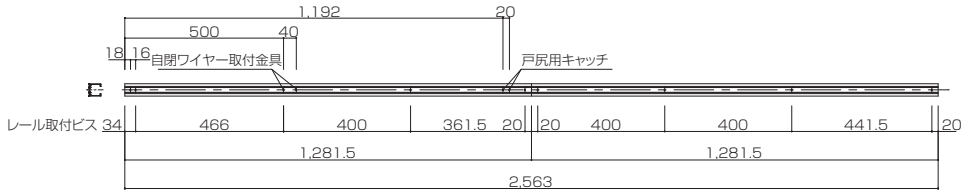
枠外=1,915
穴径:共通Φ4.5



枠外=2,215
穴径:共通Φ4.5

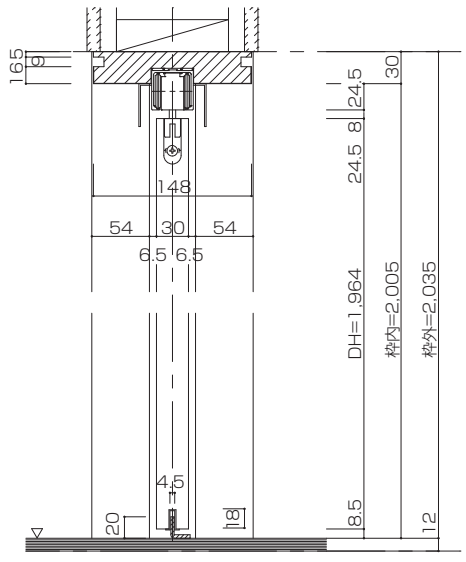


枠外=2,615
穴径:共通Φ4.5

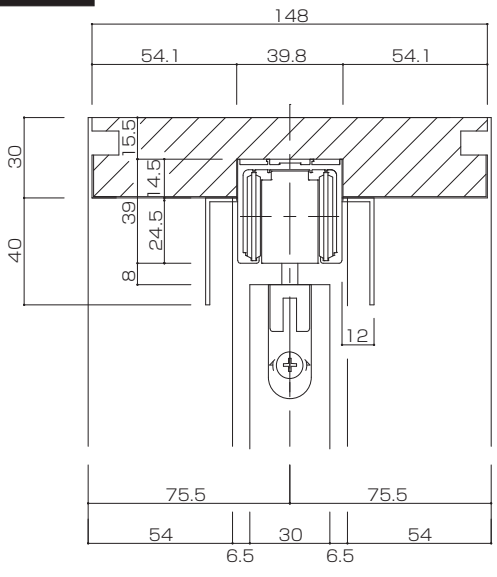


縦断面図

（単位:mm）



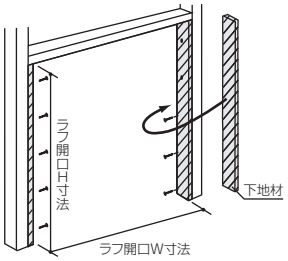
鴨居詳細断面図



施工手順（自閉式引き込み戸）

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

① 取り付け開口部の確認

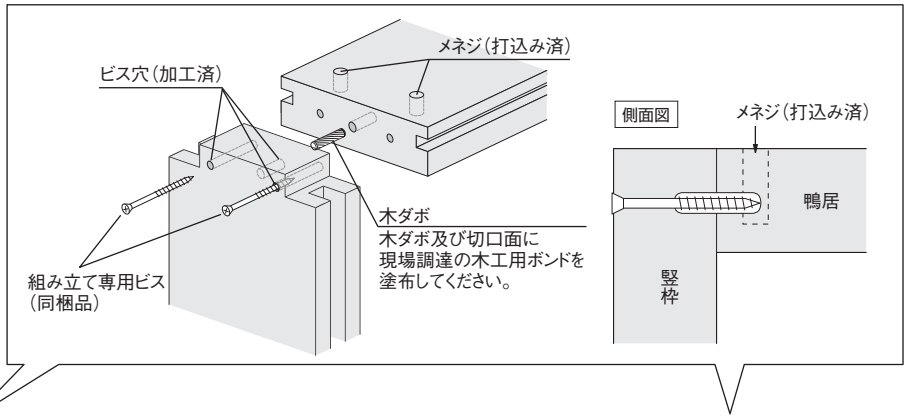


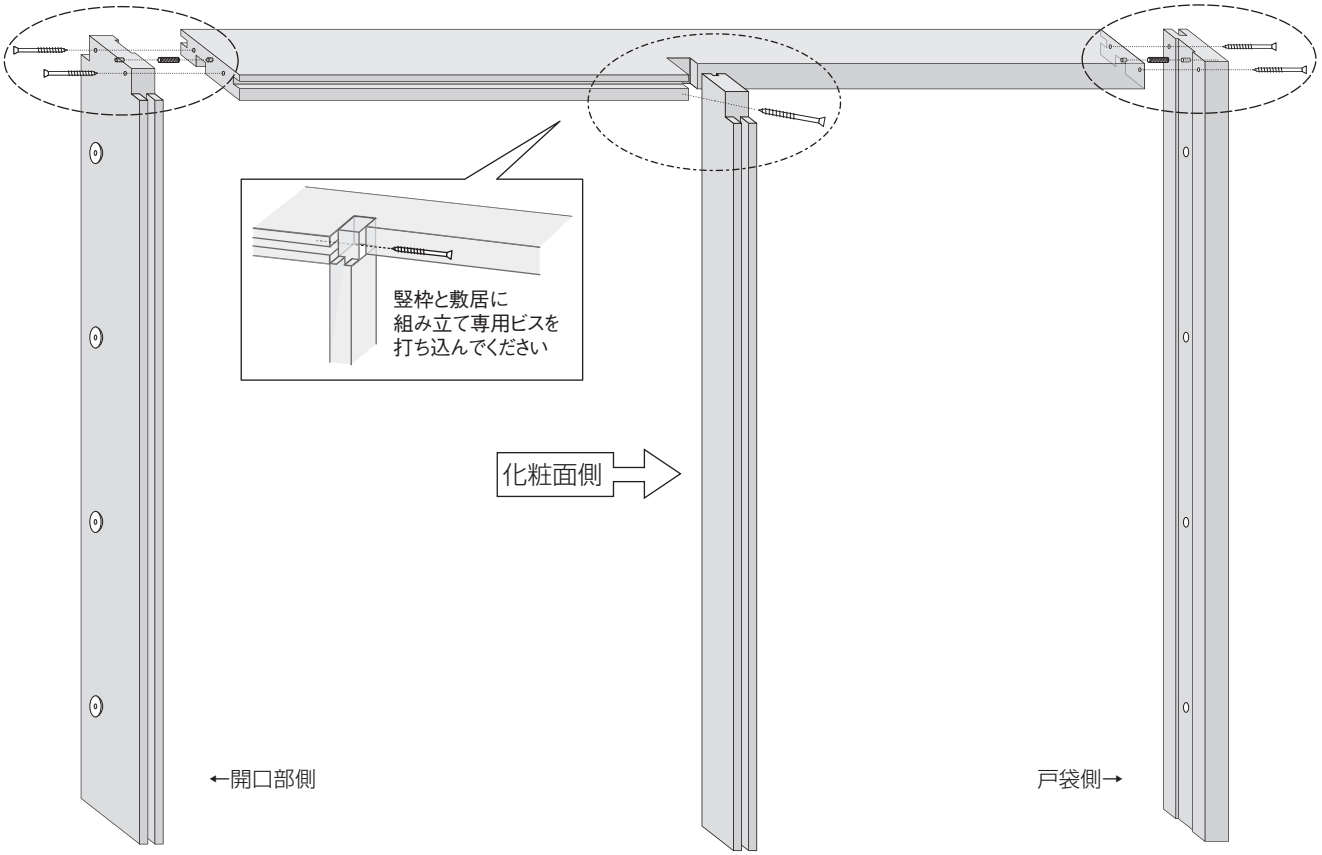
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、
枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

② 枠材の組み立て

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

同梱の木ダボ、組み立て用ビス、木工用ボンド（現場調達）を使用して枠材を組み立ててください。鴨居の細くなっている側が戸袋側になります。
※戸袋側の竪枠には化粧シートは貼られておりません。



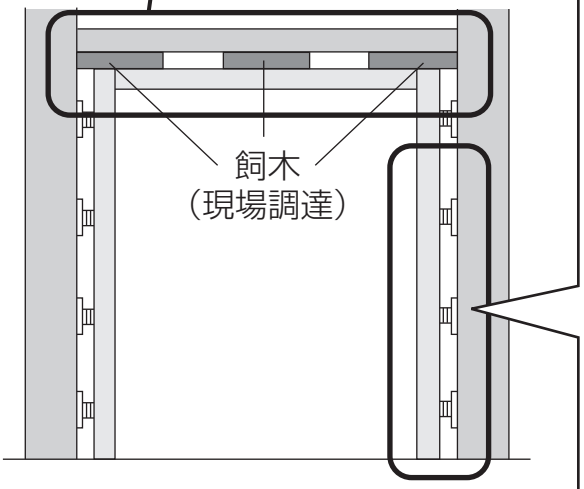


③ 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

4方に組んだ枠材を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に
別途パッキン材などを用意する必要はありません。

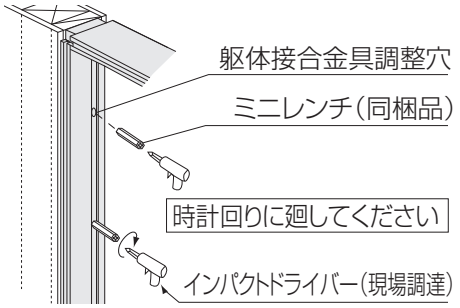
⚠ 注意

鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れてください。
この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

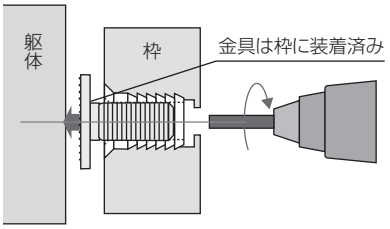


ポイント　金具で突っ張らせて枠を仮固定する

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ねじれを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。



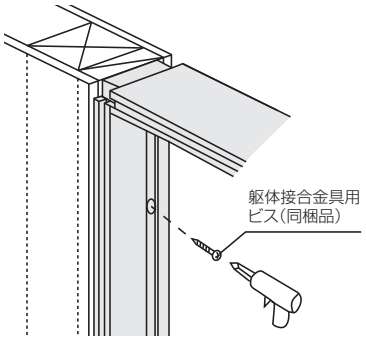
同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、
金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの
場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。



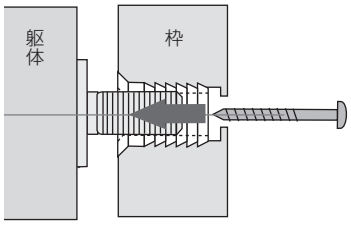
⚠ 注意

**インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、
金具が破損してしまうおそれがあります。**

竪枠を躯体接合金具用ビスで
躯体に固定させます。



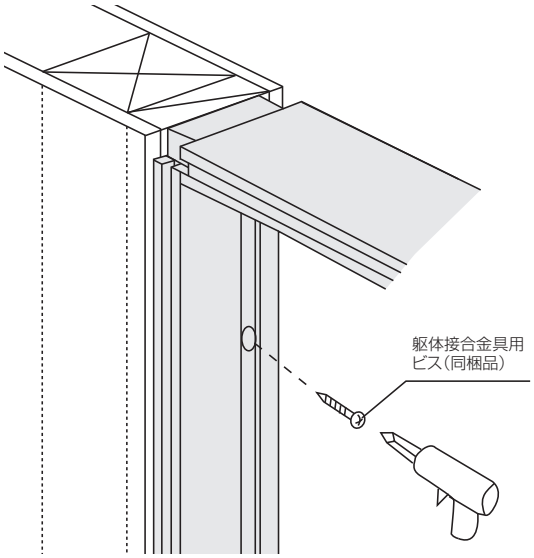
枠材表面の穴よりビスを差し込み、
柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



④ 枠材の固定と建て付け調整

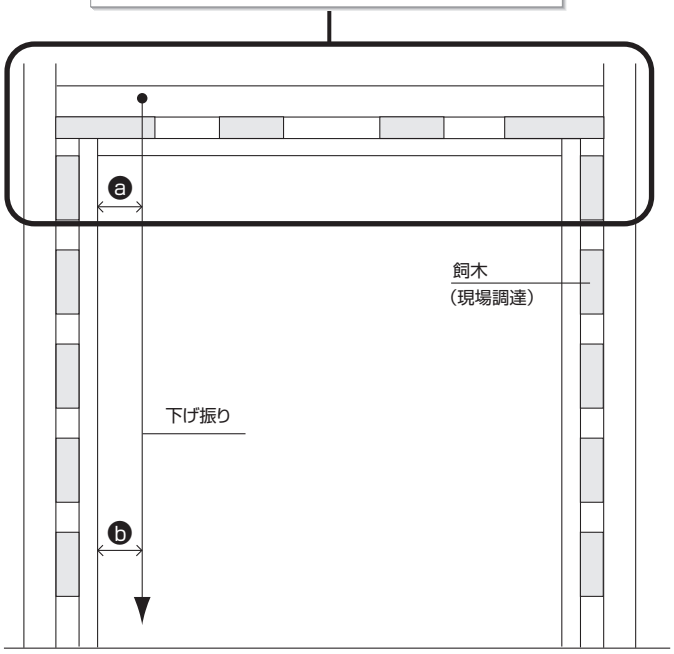
3方に組んだ枠材を開口部にセットしてください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ねじれを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



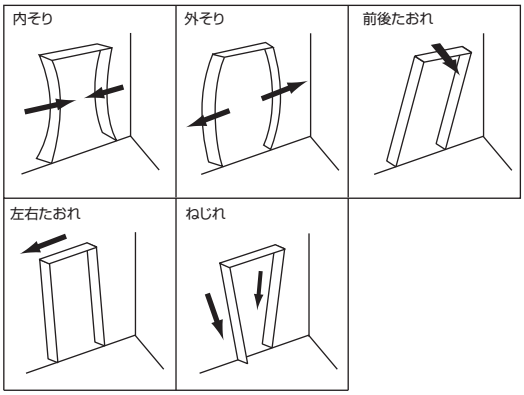
⚠注意

鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れてください。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。

※下記の様なことがないようご注意ください。



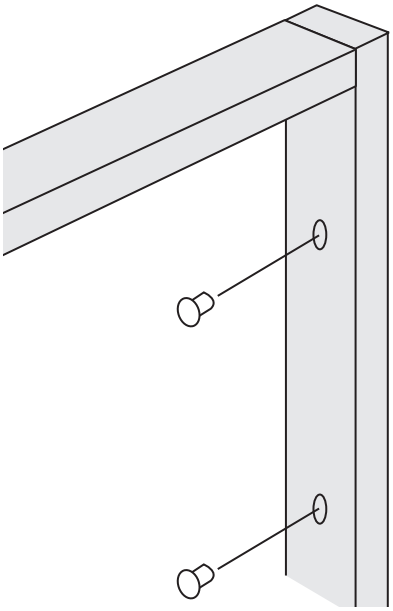
クッションキャップの取り付け

戸袋側の竪枠にクッションキャップを取り付けてください。

※クッションキャップは確実に取り付けてください。
確実に取り付けていないと外れてしまうことがあります。

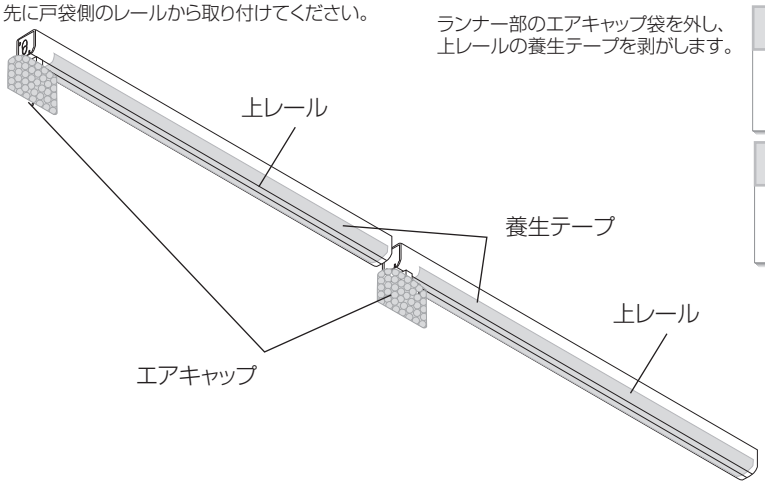
⚠注意

小壁を施工した後ではクッションキャップを取り付けることができませんのでご注意ください。



⑤ 上レールの取り付け

先に戸袋側のレールから取り付けてください。



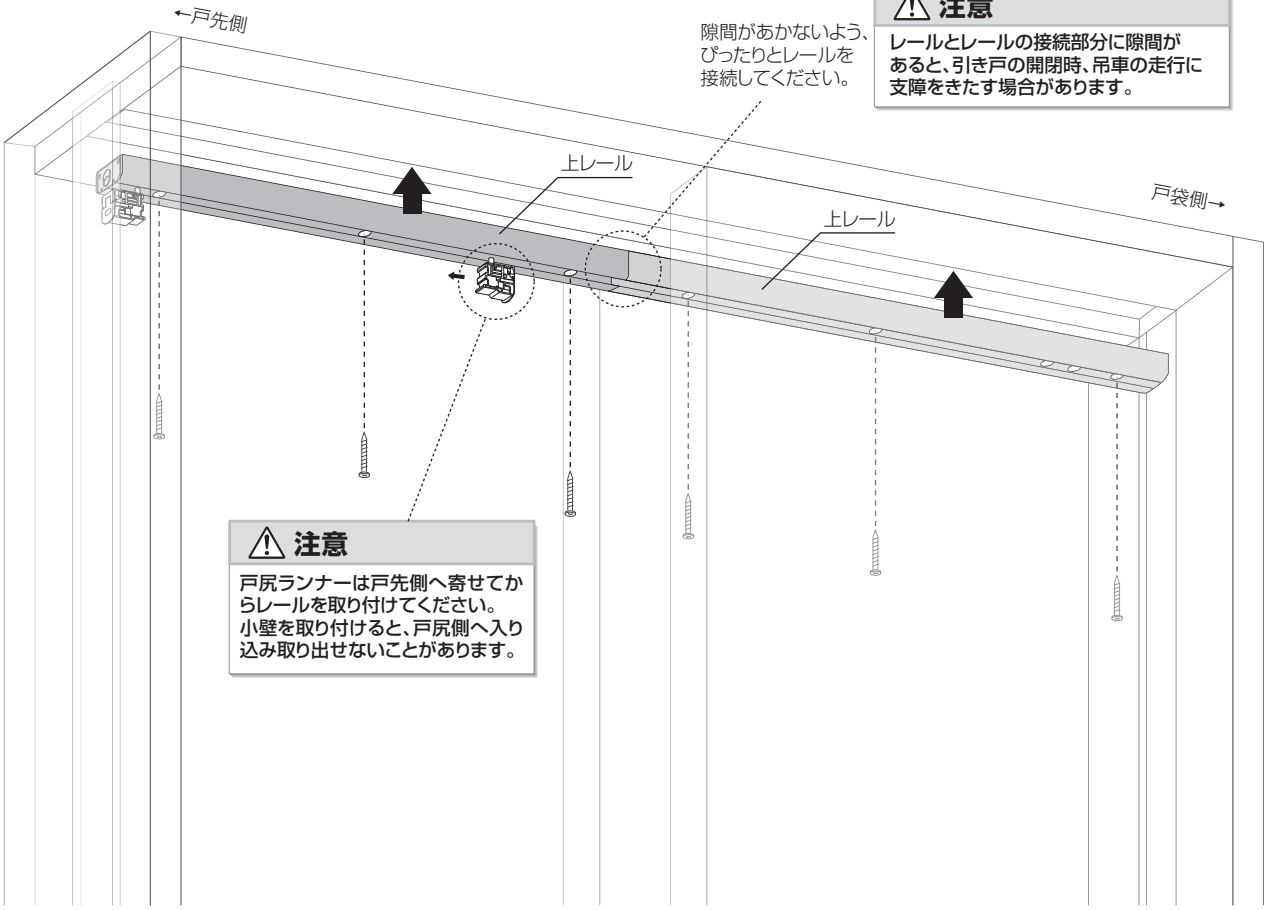
ランナー部のエアキャップ袋を外し、
上レールの養生テープを剥がします。

⚠ 注意

養生テープは扉吊込みの直前まで必要です。
上レール取付後、砂塵、埃などを防止するため
必ず再度養生テープを貼り付けてください。

⚠ 注意

戸吊りランナーを1,200mm以上
移動させないでください。
巻きばねが外れる恐れがあります。



隙間があかないよう、
ぴったりとレールを
接続してください。

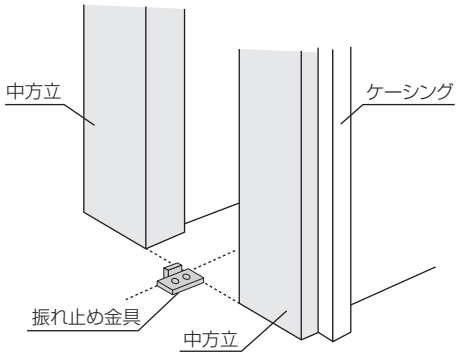
⚠ 注意

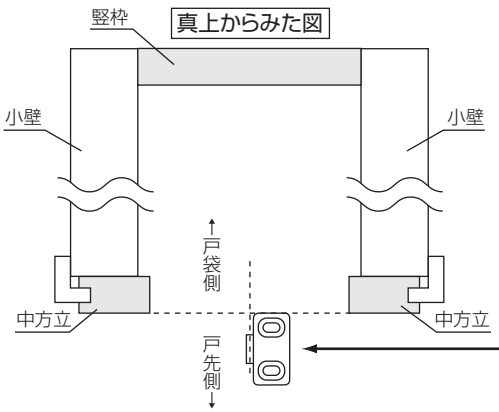
レールとレールの接続部分に隙間が
あると、引き戸の開閉時、吊車の走行に
支障をきたす場合があります。

⚠ 注意

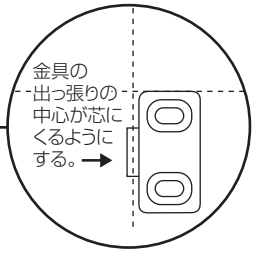
戸尻ランナーは戸先側へ寄せてか
らレールを取り付けてください。
小壁を取り付けると、戸尻側へ入り
込み取り出せないことがあります。

⑥ 振れ止め金具の取り付け





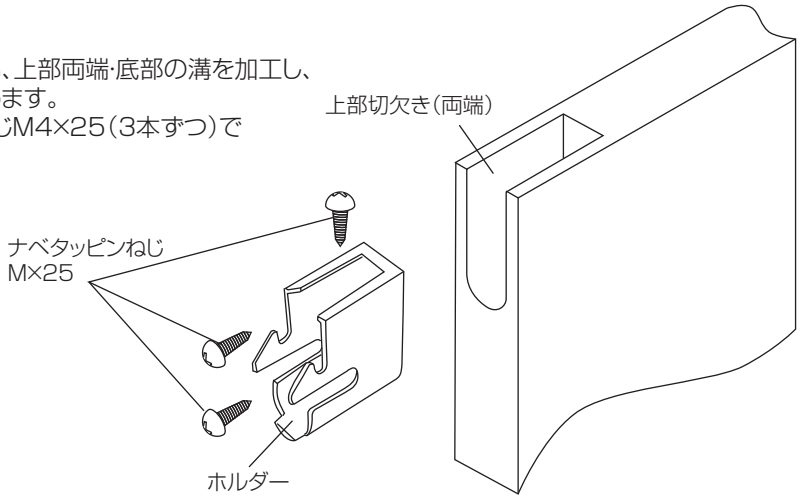
振れ止め金具は中方立てと
中方立ての中心に
合わせて取り付けてください。



⑦ 扉吊り込み前の準備

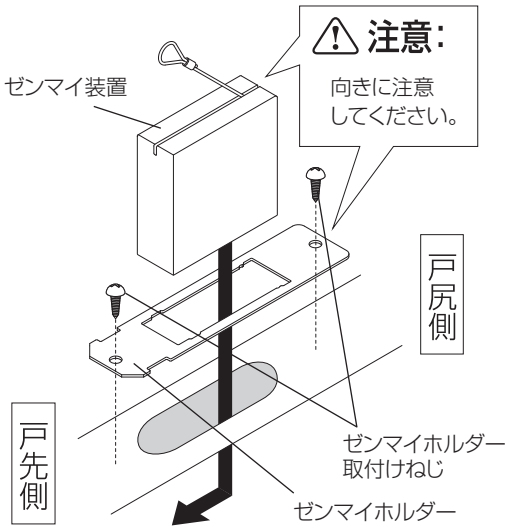
ホルダーの取付け

扉本体を納まり図の扉加工寸法に従い、上部両端･底部の溝を加工し、
ホルダーを扉の上部両端切欠きにはめます。
ホルダーをはめ込み後ナベタッピンねじM4×25（3本ずつ）で
ねじ止めします。

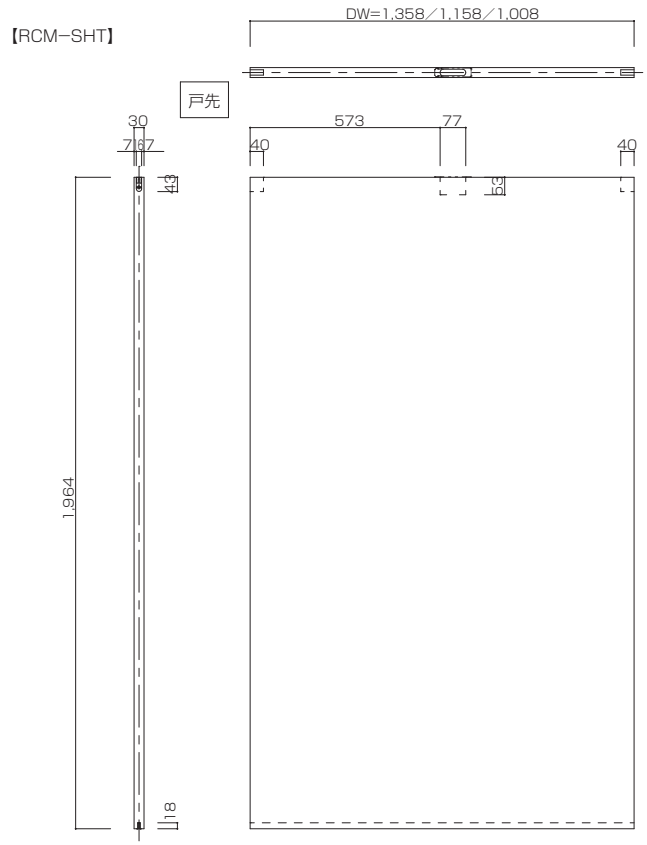


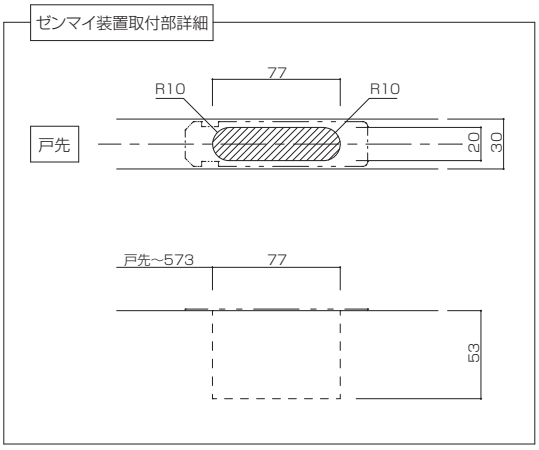
ゼンマイ装置の取付け

ゼンマイホルダーをゼンマイホルダー取付けねじを使って取付けます。
ゼンマイ装置を挿入し、戸先側へずらしてゼンマイホルダーへはめます。



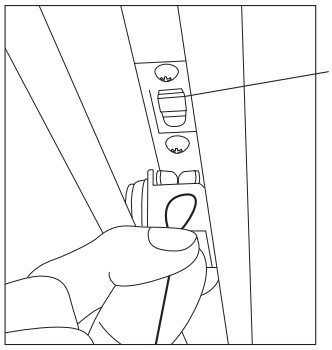
【RCM−SHT】

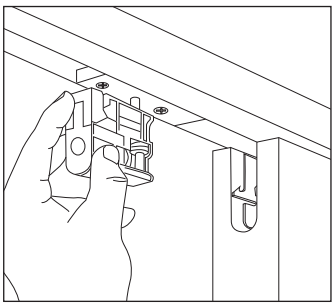




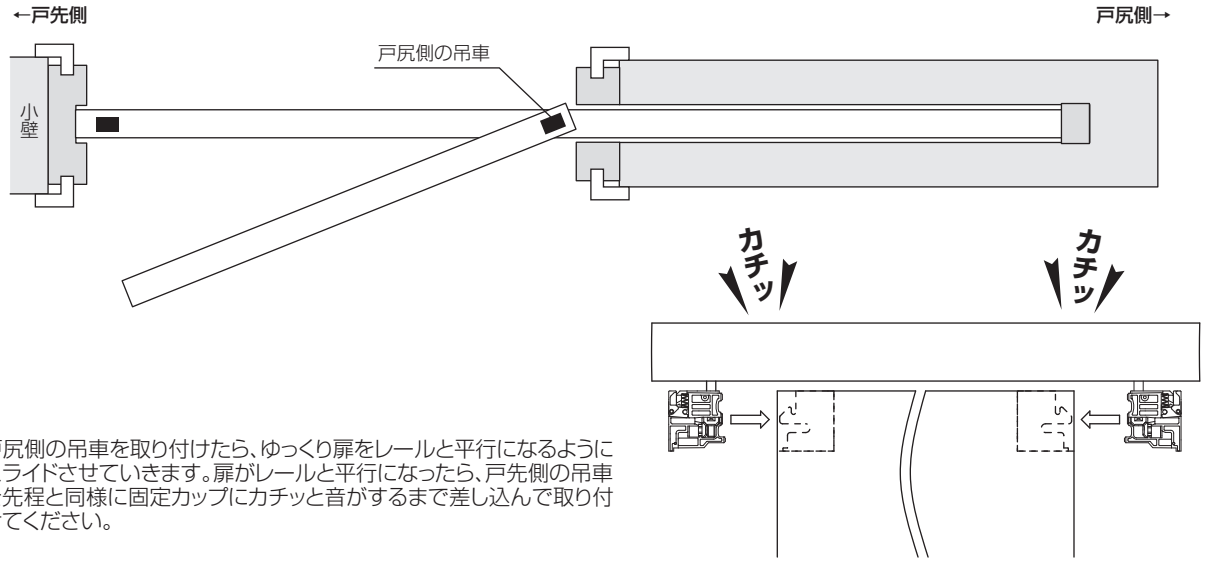
⑧ 引き戸の吊り込み

戸と開口部に寄せて、ゼンマイ装置のワイヤー先端を
ワイヤーフックに引っ掛けます。

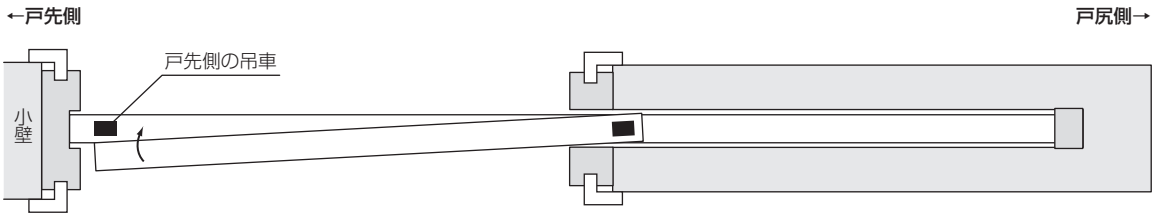




床に取り付けた振れ止め金具に引き戸をひっかけ、戸尻側の吊車をスライドさせ、固定カップにカチッと音がするまで差し込んで取り付けてください。

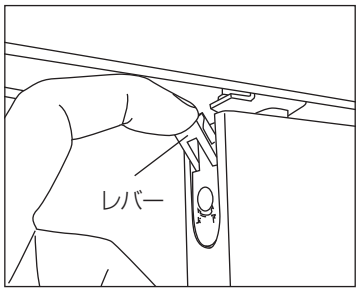


戸尻側の吊車を取り付けたら、ゆっくり扉をレールと平行になるようにスライドさせていきます。扉がレールと平行になったら、戸先側の吊車を先程と同様に固定カップにカチッと音がするまで差し込んで取り付けてください。

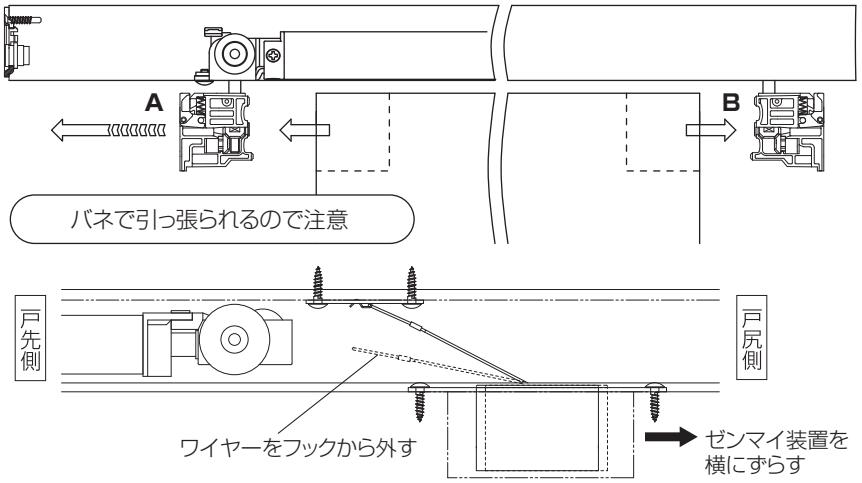


⚠ 扉の取り外しに注意

扉を外す場合は以下の手順で行ってください。
1.戸先ランナーA・戸先ランナーBのレバーを起こします。
2.そのままレバーをつまみ、手を離さず戸先ランナーA・戸先ランナーBを引き出します。
※戸先ランナーAを取り出す場合は、引き出した瞬間に戸先ランナーがバネで引っ張られますので、縦枠まで手を添えておいてください。
（急に離すと戸先ランナーAが急激に移動し、破損の原因となりますのでご注意ください）



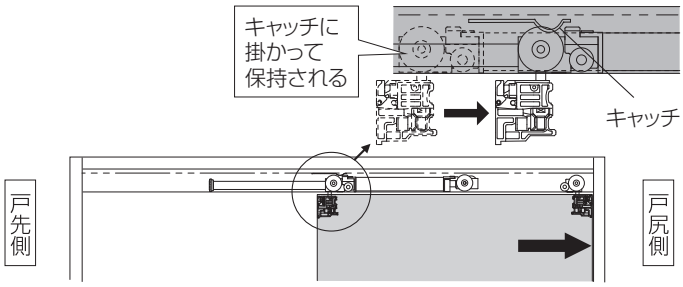
ワイヤーをフックから外します。
ゼンマイ装置はホルダー内で戸尻方向へ横にずらすと外せます。



⑨ 動作確認

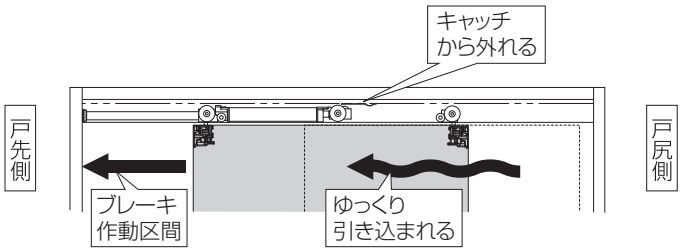
戸を全開にする

戸を全開し、キャッチに掛かって静止するか確認します。



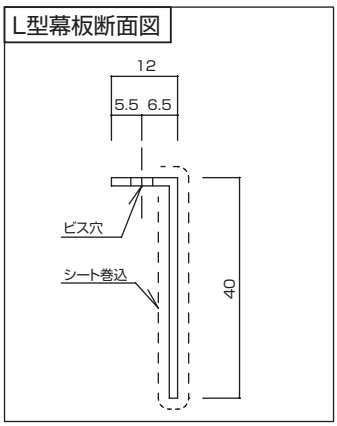
戸を閉じる

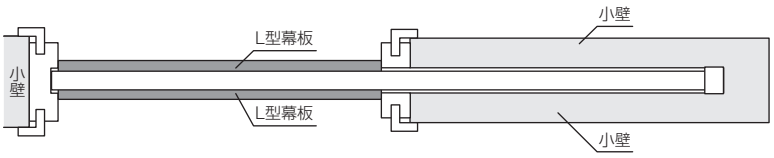
全開状態から戸を引き、キャッチを解除したら手を離します。
戸が自動で引き込まれ、ブレーキが掛かってから閉まりきることを確認します。

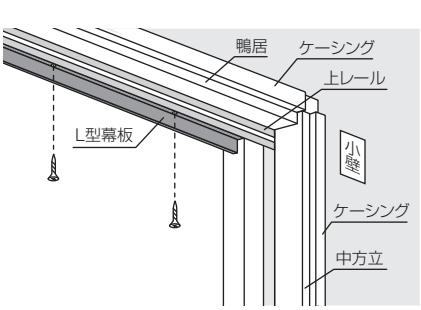


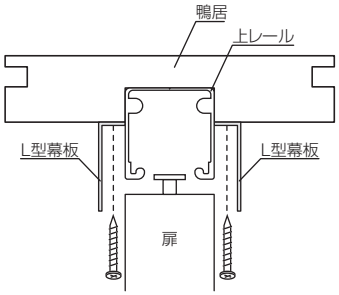
⑩ L型幕板の取り付け

引き戸を吊り込んだ後にL型幕板を上レールに合わせて取り付けてください。





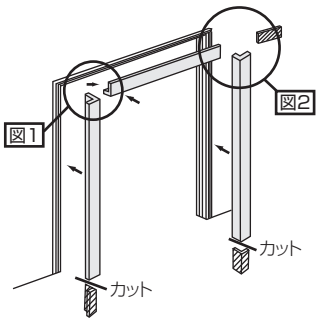




ビスの取り付け位置にご注意ください。

⑪ ケーシングの取り付け

（単位:mm）



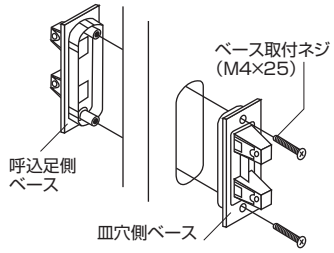
ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用接着剤（現場調達）を使用し、取り付けてください。

⑫ 引き手の取り付け

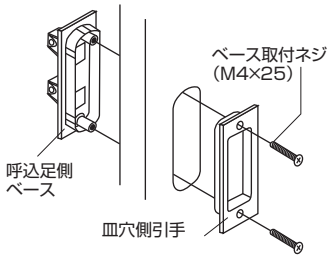
1.ベースの取り付け

呼込足側ベースと皿穴側ベースをベース取付ネジでしっかり固定してください。
片側バー引き手仕様の場合は、片側は引き手になります。

両側バー引き手仕様の場合



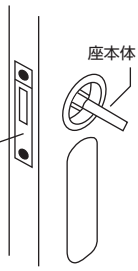
片側バー引き手仕様の場合



⚠ 注意

※電動ドライバーは使用しないでください。
各取付ネジは、製品が変形・破損しないよう注意し、しっかり締め付けてください。

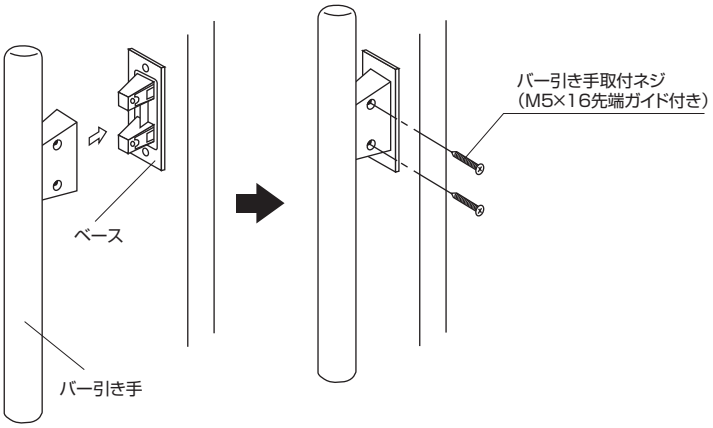
※引戸錠をご利用の場合は、先に引戸錠セットを取り付けてください。
先にバー引き手を取り付けると、引戸錠の座本体を取り付ける事ができません。



2.バー引き手の取り付け

バー引き手をベースにかぶせ、バー引き手取付ネジでしっかり固定してください。
取り付け後、バー引き手にガタツキが無いか確認してください。

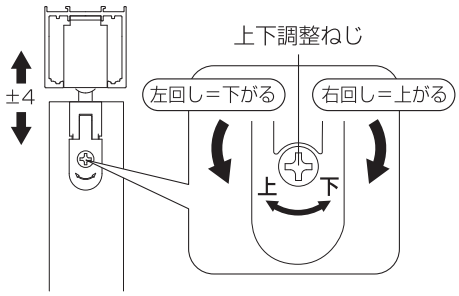
バー引き手からバー引き手への交換は
右記の逆順で取り付けてください。



⑬ 各種調整

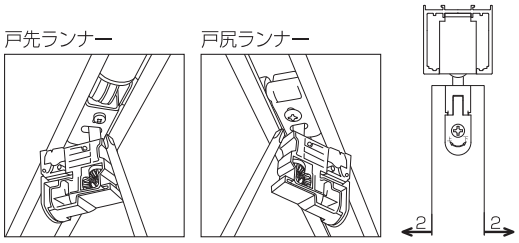
●戸の上下調整

上下それぞれ4mmの調整が可能です。
戸先ランナー・戸尻ランナーの"上下調整ねじ"を回して調整します。



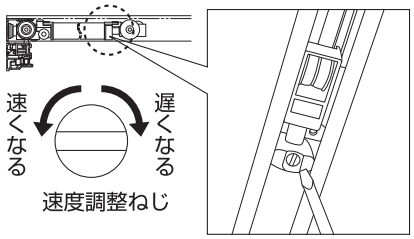
●戸の前後(奥行き)調整

前後それぞれ2mmの調整が可能です。
1.戸先・戸尻のランナーを戸から引き出して、各ランナーの下面にある"前後調整ねじ"を緩めます。
2.戸の前後位置を調整します。
3.調整が終わったら"前後調整ねじ"を締め込みます。



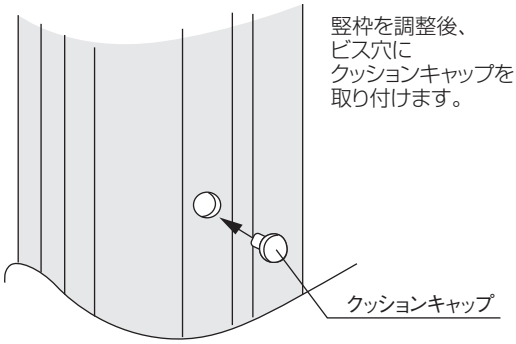
●ブレーキ力の調整

ブレーキ作動区間内で戸が閉まる速さを調整できます。
戸先ランナーユニットを戸から引き出して、ブレーキシリンダーについている"速度調整ねじ"を回して調整します。
※・左回し:速くなる(ブレーキ力が弱まる)
・右回し:遅くなる(ブレーキ力が強まる)



●クッションキャップの確認

クッションキャップの確認



WOODONE